医師会長エッセイ

ポラリスを仰ぐ北の大地から

生命をつなぐ

岩見沢市医師会　会長　得地（とくち）　史郎（ふみお）

昨年、念願の淡路島を二度訪れ、人形浄瑠璃に触れる機会を得た。一体の人形を三人の遣い手が息を合わせて操る姿に、人の技と心が一つとなり、生命を生み出す力を感じた。

日本の伝統芸能である人形浄瑠璃に関心を抱いたきっかけは、海外のブロードウェイ・ミュージカルにある。30年ほど前、ニューヨークに留学する機会に恵まれ、研究生活の暇に鑑賞した本場の音楽と歌による華やかな舞台に魅了された。なかでも、ジュリー・テイモア氏が演出した『ライオンキング』で、舞台上のパペットがあたかも生命を宿したかのように躍動する表現に感銘を受けた。後日、同氏がその表現を日本の淡路人形浄瑠璃から学んだことを知り、興味を抱いたのである。

人形浄瑠璃を実見してみて心に残ったのは、その卓越した技術や表現だけではない。戦後、存続の危機に瀕した伝統を地域の人々が守り、次の世代へと受け渡してきたその営みにも深い感銘を受けた。人形遣い、太夫、三味線など、いずれ一つを欠かすことのできない要素が営々と伝承され、舞台上で融合される。今日もなお、その奥深い物語の世界に触れられることに、深い感慨を覚える。

人形浄瑠璃が一人では成り立たないように、地域医療もまた、一人の力では守れない。医師、看護師、薬剤師、介護職、行政、そして地域住民が、それぞれの役割を担い、力を合わせることで、地域医療がその使命を果たすことができる。

岩見沢という人口減少と高齢化が進む地域で、本年四月、岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院が経営統合した。限られた医療資源を生かし、地域に必要な医療を未来へつなぐための大きな転換である。

淡路人形浄瑠璃が示す、たゆまぬ連携と伝承の姿を鑑として、今度は私たちもまた、先人から受け継いだ地域医療に新たな生命を吹き込み、次の世代へと手渡していきたい。

北海道医報「会員のひろば」投稿募集

◇情報広報部◇

北海道医報では、「会員のひろば」への投稿を募集しています。記事の内容は自由です。医療情勢、診療で日頃から感じること、趣味・紀行、エッセイ、自己紹介等でも可です。

1．記 事 制 限：１記事あたり１ページ以内。
2．文　字　数：600 ～ 1,000字（１段分）または1,600 ～ 2,000字程度（２段１ページ分）
　　※いずれも写真・図含まず。
3．掲　　載：掲載可否および掲載号は広報委員会にて決定します。
4．原稿送付先：ihou@m.doui.jp
5．問い合わせ先：011-231-7661（情報広報部）